

## 1 人口動態統計

人口動態調査は、統計法による基幹統計調査として実施されており、「戸籍法」及び「死産の届け出に関する規程」に基づき、各市区町村長に届け出のあった出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の5種類の届出書等から、人口動態調査令により各調査票を作成する方法で行われています。

人口動態調査は国勢調査と並び、我が国の主要な統計の一つであり、各種行政施策の基礎資料として極めて重要な役割を果たしています。

### (1) 全道概況

令和元年の北海道の人口動態統計は、平成30年と比較して、死亡件数は増加し、出生・死産件数は減少しています。また、婚姻件数は増加し、離婚件数は減少しています。

出生数は、平成7年に大正・昭和・平成をとおして初めて5万人を割り込みましたが、その後も減少傾向が続き、令和元年は31,020人と前年より1,622人減少しました。

死亡数は1,311人増加して65,498人となり、出生数から死亡数を差し引いた自然増加数は、マイナス34,478人で、初めて自然減となった平成15年に続いて17年連続の自然減となりました。(表1)

表1 人口動態統計の概況

	実 数				比 率		平均発生間隔	
	令和元年	平成30年	増減	増減率	令和元年	平成30年	令和元年	平成30年
出生	31 020	32 642	-1 622	-5.0	6.0	6.2	日 時 分 秒	日 時 分 秒
死亡	65 498	64 187	1 311	2.0	12.6	12.2	0:16:57	0:16:06
乳児死亡	64	62	2	3.2	2.1	1.9	0:08:01	0:08:11
新生児死亡	24	32	- 8	-25.0	0.8	1.0	5: 16:52:30	5: 21:17:25
周産期死亡	112	118	- 6	-5.1	3.6	3.6	15: 5:00:00	11: 9:45:00
妊娠満22週以後の死産	91	95	- 4	-4.2	2.9	2.9	3: 6:12:51	3: 2:14:14
早期新生児死亡	21	23	- 2	-8.7	0.7	0.7	4: 0:15:49	3: 20:12:38
死産	852	881	- 29	-3.3	26.7	26.3	17: 9:08:34	15: 20:52:10
自然死産	370	388	- 18	-4.6	11.6	11.6	10:16:54	9:56:36
人工死産	482	493	- 11	-2.2	15.1	14.7	23:40:32	22:34:38
婚姻	23 417	22 916	501	2.2	4.5	4.4	18:10:27	17:46:08
離婚	9 833	9 971	- 138	-1.4	1.89	1.90	0:22:27	0:22:56
							0:53:27	0:52:43

注1) 比率

乳児・新生児死亡率…出生千対、周産期死亡率…(出生+妊娠満22週以後の死産)千対

死産率…出産(出生+死産)千対

その他…人口千対

2) 率算出に用いた人口は、各年10月1日現在の推計日本人口(総務省統計局)27年は、国勢調査日本人口。

### (2) 二次保健医療福祉圏別概況

二次保健医療福祉圏別に各事象の比率をみると、出生では根室圏が6.6と最も高く、札幌圏及び東胆振圏の6.4と続き、最低は南檜山圏及び南空知圏の4.2となっています。

死亡では南檜山圏が18.6と最も高く、北空知圏18.0、留萌圏17.8と続き、最低は札幌圏の10.1となっており、乳児死亡では北渡島檜山圏が11.8と最も高く、発生件数の無い圏域は南檜山圏、南空知圏、中空知圏、北空知圏、日高圏、富良野圏、留萌圏、遠紋圏となっています。

死産では南空知圏が54.3と最も高く、南渡島圏35.5と続き、最低は富良野圏12.3となっています。

婚姻では札幌圏が5.0と最も高く、宗谷圏4.8と続き、最低は南檜山圏、北渡島檜山圏及び南空知圏の3.3となっています。

また、離婚では東胆振圏が2.20と最も高く、釧路圏2.09と続き、最低は留萌圏の1.26となっています。

(表2)

表2 二次保健医療福祉圏の人口動態

二次保健 医療福祉圏	出生	死亡	乳児死亡 (再掲)	新生児 死亡 (再掲)	周産期死亡			死産	婚姻	離婚
					総数	妊娠満22週 以後の死産	生後1週 未満死亡			
<b>全道計</b>	<b>31 020</b>	<b>65 498</b>	<b>64</b>	<b>24</b>	<b>112</b>	<b>91</b>	<b>21</b>	<b>852</b>	<b>23 417</b>	<b>9 833</b>
南渡島	1 877	5 745	3	1	9	8	1	69	1 495	709
南檜山	91	400	0	0	0	0	0	2	70	28
北渡島檜山	170	594	2	0	0	0	0	4	112	64
札幌	15 224	24 043	31	12	55	44	11	422	11 776	4 631
後志	962	3 175	3	1	1	0	1	22	748	292
南空知	645	2 499	0	0	3	3	0	37	511	222
中空知	486	1 761	0	0	1	1	0	14	358	154
北空知	137	544	0	0	0	0	0	5	105	45
西胆振	952	2 808	1	0	7	7	0	28	695	300
東胆振	1 318	2 602	3	2	7	6	1	34	971	453
日高	358	976	0	0	0	0	0	8	276	95
上川中部	2 244	5 316	5	2	7	5	2	66	1 602	734
上川北部	342	809	1	0	1	1	0	6	208	105
富良野	240	538	0	0	0	0	0	3	178	56
留萌	227	778	0	0	0	0	0	3	166	55
宗谷	350	865	2	2	3	2	1	7	299	115
北網	1 234	2 808	3	1	7	6	1	35	820	388
遠紋	369	1 049	0	0	2	2	0	5	253	126
十勝	2 109	4 150	6	2	4	2	2	44	1 496	664
釧路	1 213	3 101	3	1	4	3	1	30	971	467
根室	472	937	1	0	1	1	0	8	307	130
<b>全道計</b>	<b>6.0</b>	<b>12.6</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>0.2</b>	<b>4.5</b>	<b>1.9</b>
南渡島	5.2	15.9	1.6	0.5	4.8	4.2	0.5	35.5	4.1	1.96
南檜山	4.2	18.6	-	-	-	-	-	21.5	3.3	1.30
北渡島檜山	5.0	17.6	11.8	-	-	-	-	23.0	3.3	1.90
札幌	6.4	10.1	2.0	0.8	3.6	2.9	0.7	27.0	5.0	1.95
後志	4.8	15.9	3.1	1.0	1.0	-	1.0	22.4	3.7	1.46
南空知	4.2	16.2	-	-	4.6	4.6	-	54.3	3.3	1.44
中空知	4.8	17.4	-	-	2.1	2.1	-	28.0	3.5	1.53
北空知	4.5	18.0	-	-	-	-	-	35.2	3.5	1.49
西胆振	5.3	15.8	1.1	-	7.3	7.3	-	28.6	3.9	1.69
東胆振	6.4	12.7	2.3	1.5	5.3	4.5	0.8	25.1	4.7	2.20
日高	5.6	15.4	-	-	-	-	-	21.9	4.3	1.49
上川中部	6.0	14.1	2.2	0.9	3.1	2.2	0.9	28.6	4.2	1.95
上川北部	5.5	13.1	2.9	-	2.9	2.9	-	17.2	3.4	1.69
富良野	6.0	13.5	-	-	-	-	-	12.3	4.5	1.40
留萌	5.2	17.8	-	-	-	-	-	13.0	3.8	1.26
宗谷	5.7	14.0	5.7	5.7	8.5	5.7	2.9	19.6	4.8	1.86
北網	5.8	13.3	2.4	0.8	5.6	4.8	0.8	27.6	3.9	1.84
遠紋	5.7	16.2	-	-	5.4	5.4	-	13.4	3.9	1.95
十勝	6.3	12.5	2.8	0.9	1.9	0.9	0.9	20.4	4.5	2.00
釧路	5.4	13.9	2.5	0.8	3.3	2.5	0.8	24.1	4.3	2.09
根室	6.6	13.1	2.1	-	2.1	2.1	-	16.7	4.3	1.82
<b>全道計</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>
南渡島	6.1	8.8	4.7	4.2	8.0	8.8	4.8	8.1	6.4	7.2
南檜山	0.3	0.6	-	-	-	-	-	0.2	0.3	0.3
北渡島檜山	0.5	0.9	3.1	-	-	-	-	0.5	0.5	0.7
札幌	49.1	36.7	48.4	50.0	49.1	48.4	52.4	49.5	50.3	47.1
後志	3.1	4.8	4.7	4.2	0.9	-	4.8	2.6	3.2	3.0
南空知	2.1	3.8	-	-	2.7	3.3	-	4.3	2.2	2.3
中空知	1.6	2.7	-	-	0.9	1.1	-	1.6	1.5	1.6
北空知	0.4	0.8	-	-	-	-	-	0.6	0.4	0.5
西胆振	3.1	4.3	1.6	-	6.3	7.7	-	3.3	3.0	3.1
東胆振	4.2	4.0	4.7	8.3	6.3	6.6	4.8	4.0	4.1	4.6
日高	1.2	1.5	-	-	-	-	-	0.9	1.2	1.0
上川中部	7.2	8.1	7.8	8.3	6.3	5.5	9.5	7.7	6.8	7.5
上川北部	1.1	1.2	1.6	-	0.9	1.1	-	0.7	0.9	1.1
富良野	0.8	0.8	-	-	-	-	-	0.4	0.8	0.6
留萌	0.7	1.2	-	-	-	-	-	0.4	0.7	0.6
宗谷	1.1	1.3	3.1	8.3	2.7	2.2	4.8	0.8	1.3	1.2
北網	4.0	4.3	4.7	4.2	6.3	6.6	4.8	4.1	3.5	3.9
遠紋	1.2	1.6	-	-	1.8	2.2	-	0.6	1.1	1.3
十勝	6.8	6.3	9.4	8.3	3.6	2.2	9.5	5.2	6.4	6.8
釧路	3.9	4.7	4.7	4.2	3.6	3.3	4.8	3.5	4.1	4.7
根室	1.5	1.4	1.6	-	0.9	1.1	-	0.9	1.3	1.3

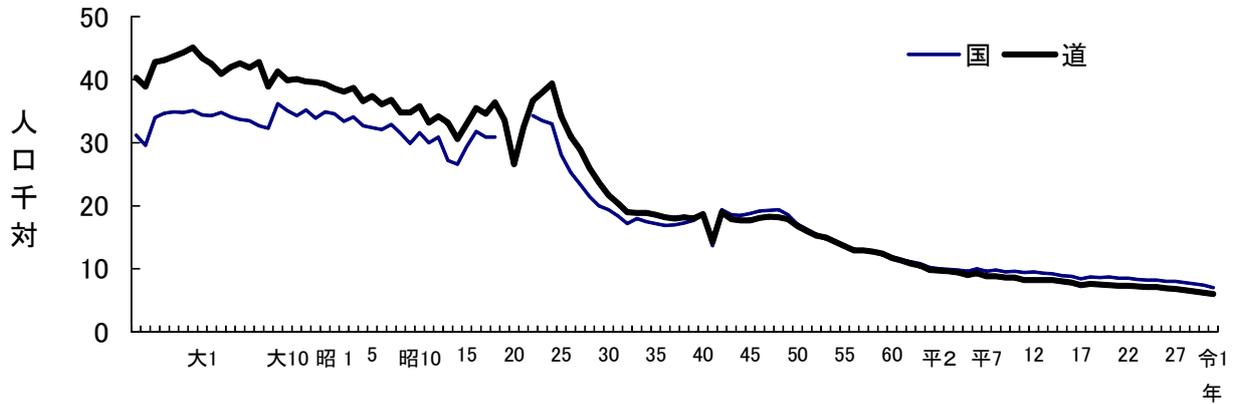
### (3) 出生

令和元年の出生数は31,020人で、前年の32,642人より1,622人減少し、出生率（人口千対）は6.0でした。性別出生数は男15,988人、女15,032人となっています。

出生率の年次推移をみると、第一次ベビーブームの昭和24年の出生率は戦後最高の39.4を記録しています。その後急激に減少し、昭和32年には19.0まで減少しました。以後ほぼ横ばい状態で推移していましたが、昭和50年以降再び減少傾向に転じました。令和元年の出生率は6.0で過去最低になりました。

また、全国値の7.0と比較して1.0下回っています。（図1）

図1 出生率の年次推移(人口千対)



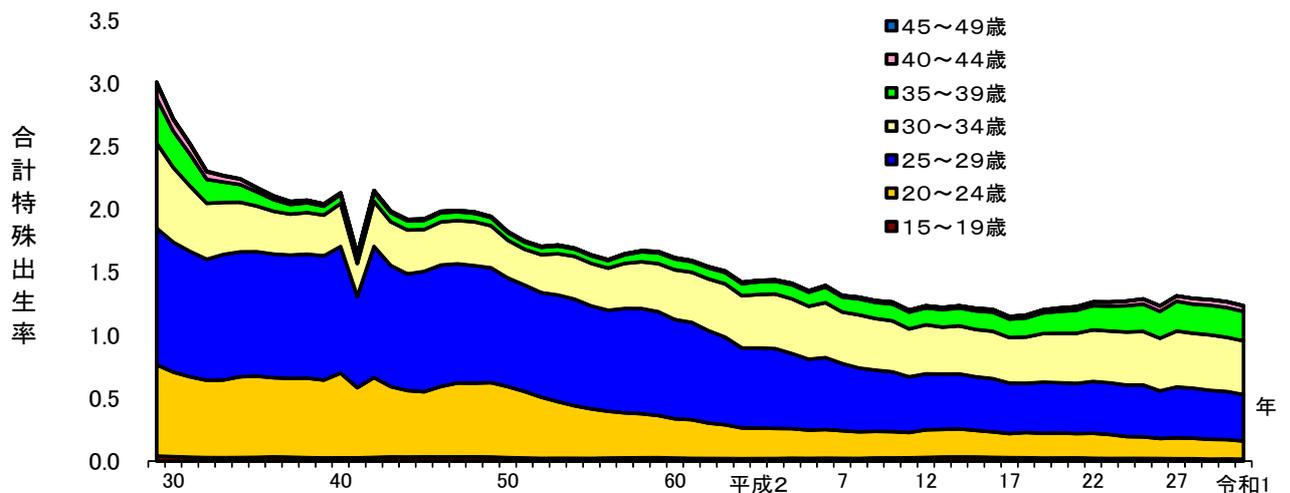
### (4) 合計特殊出生率

合計特殊出生率の推移をみると、昭和25年は4.56と高い率でしたが、その後急激に低下し、昭和30年には3.0を割り、昭和30～40年代は「ひのえうま」（昭和41年）の特殊な動きを除けば2.0前後の水準で推移していましたが、昭和50年以降は再び低下傾向が続いており、平成17年には、1.15と過去最低値となりました。その後、増加傾向に転じ、令和元年は1.24となりました。

母の年齢階級別出生率でも、各年齢階級とも昭和25年から急激に低下しています。

昭和40年代になっても各年齢階級とも一定の水準で推移していましたが、昭和50年からは30歳代で上昇しているものの30歳未満の年齢階級では低下し、年齢階級毎に合計した合計特殊出生率は、低下傾向をたどっています。（図2）

図2 合計特殊出生率の年次推移(年齢階級別)

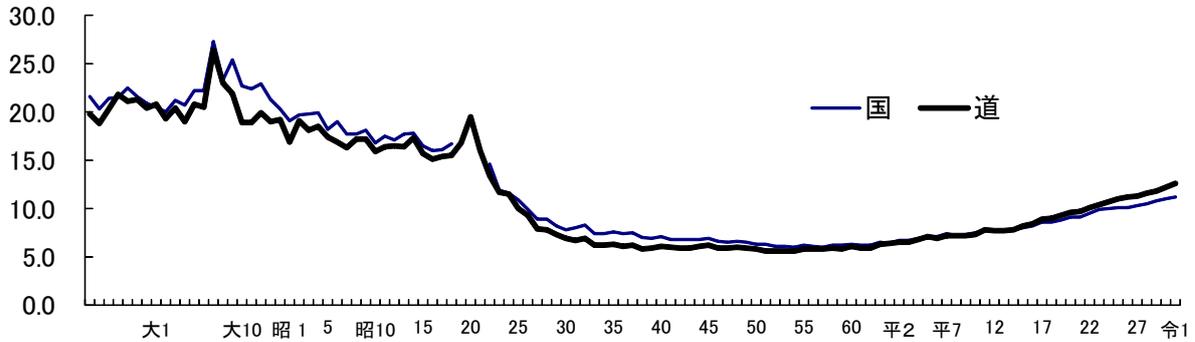


(5) 死亡

令和元年の死亡数は65,498人で前年の64,187人より1,311人増加し、死亡率（人口千対）は12.6で前年より0.4増加しました。男の死亡数は33,134人で前年の32,757人より377人増加し、女の死亡数は32,364人で前年の31,430人より934人増加しました。

死亡率（人口千対）の年次推移で見ると、戦後急速に低下し、昭和30年代半ばから緩やかな低下傾向になり、昭和53年前後は5.6と最低の死亡率を記録したものの、その後は上昇傾向に転じています。（図3）

図3 死亡率の年次推移(人口千対)

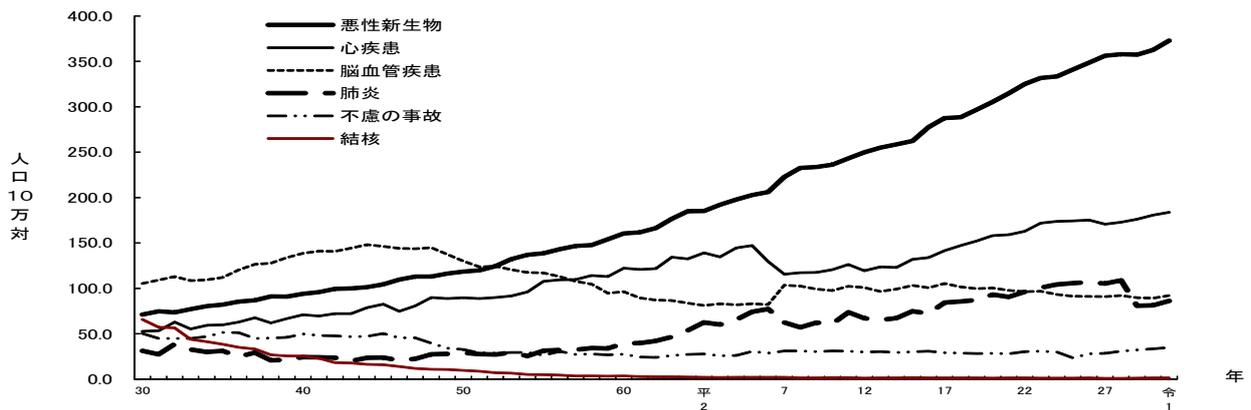


死因順位は、第1位は悪性新生物で19,425人・死亡率（人口10万対）372.8、第2位は心疾患で9,578人・死亡率（人口10万対）183.8、第3位は脳血管疾患で4,802人・死亡率（人口10万対）92.2となっており、死亡総数に占める割合は、悪性新生物29.7%、心疾患14.6%、脳血管疾患7.3%で、この3大死因が全体の約5割を占めています。（表3・図4・図5）

表3 死亡数・死亡率（人口10万対）・死因順位・性別

死 因	令 和 元 年										
	総数		男			女			全国総数		
	順位	死 亡 数	死 亡 率	順位	死 亡 数	死 亡 率	順位	死 亡 数	死 亡 率	死 亡 数	死 亡 率
<b>全 死 因</b>		<b>65 498</b>	<b>1,256.9</b>		<b>33 134</b>	<b>1349.7</b>		<b>32 364</b>	<b>1174.3</b>	<b>1 381 093</b>	<b>1116.2</b>
悪性新生物	1	19 425	372.8	1	11 056	450.3	1	8 369	303.7	376 425	304.2
心疾患	2	9 578	183.8	2	4 361	177.6	2	5 217	189.3	207 714	167.9
脳血管疾患	3	4 802	92.2	4	2 333	95.0	4	2 469	89.6	106 552	86.1
肺 炎	4	4 503	86.4	3	2 444	99.6	5	2 059	74.7	95 518	77.2
老 衰	5	4 399	84.4	5	1 112	45.3	3	3 287	119.3	121 863	98.5
不慮の事故	6	1 823	35.0	6	1 003	40.9	6	820	29.8	39 184	31.7
腎 不 全	7	1 559	29.9	7	770	31.4	7	789	28.6	26 644	21.5
血管性等の認知症	8	1 134	21.8	12	442	18.0	8	692	25.1	21 394	17.3
アルツハイマー病	9	1 059	20.3	13	379	15.4	9	680	24.7	20 730	16.8
大動脈瘤及び解離	10	980	18.8	11	469	19.1	10	511	18.5	18 830	15.2

図4 主要死因の死亡率年次推移(人口10万対)



死因順位の第1位を占めている悪性新生物の部位別死亡率を年次推移で見ると、男については、「胃」、「肺」、及び「大腸」は前年度より上昇しており、「肝」は減少しています。(図6)

また、女については、「肺」及び「大腸」が前年度より上昇しており、「胃」、「肝」、「乳房」及び「子宮」は減少しています。(図7)

図5 令和元年 主要死因の割合

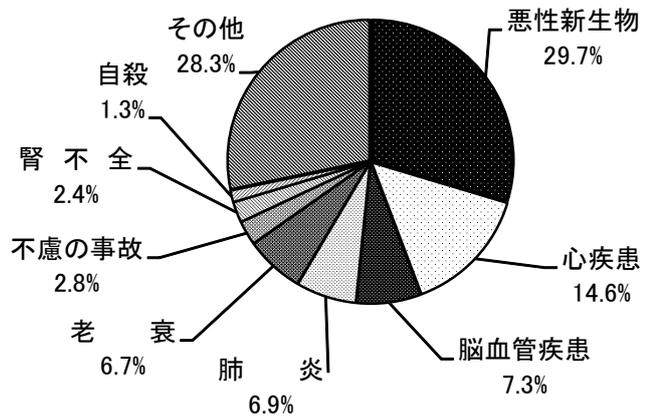


図6 悪性新生物の主な部位別死亡率(男)

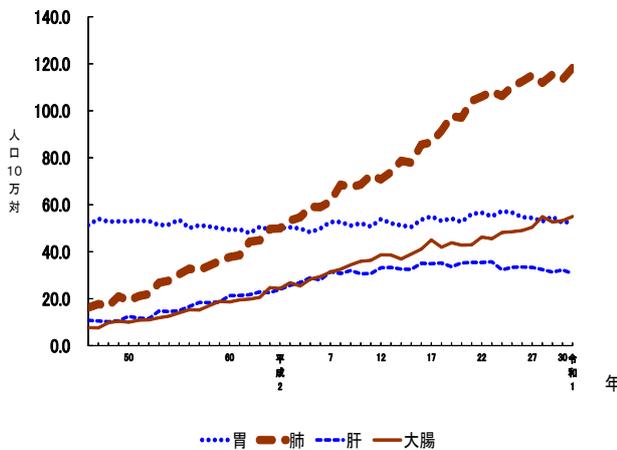
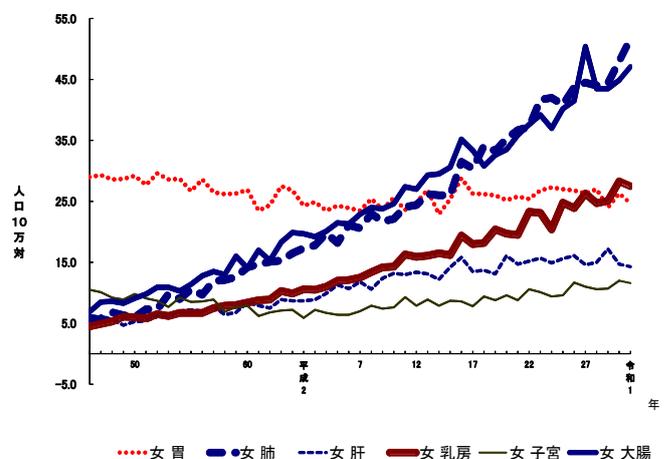


図7 悪性新生物の主な部位別死亡率(女)



#### (6) 乳児死亡

令和元年の乳児死亡(生後1年未満の死亡)は64人で前年より2人増加しており、乳児死亡率(出生千対)は2.1で前年から増加しました。死亡総数に占める割合は0.10%になっています。

乳児死亡率は昭和22年には82.8でしたが、その後一貫して低下傾向をたどり、昭和52年には10.0を割り、平成9年から3.0前後で推移し、平成20年から2.0台前半となっています。

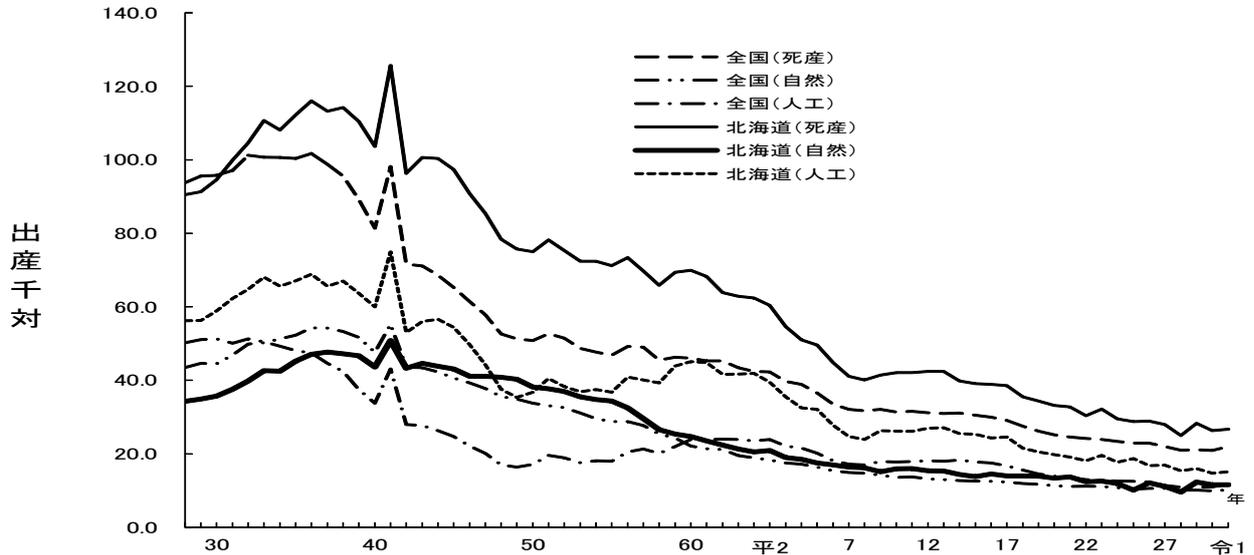
(7) 死産

令和元年の死産数は852胎で前年の881胎より29胎減少し、死産率（出産千対）は26.7で前年より増加しました。

自然死産数は370胎で前年の388胎より18胎減少し、自然死産率は11.6で前年から横ばいとなりました。

人工死産数は482胎で前年の493胎より11胎減少し、人工死産率は15.1で前年より増加しました。（図8）

図8 死産率（出産千対）



(8) 周産期死亡

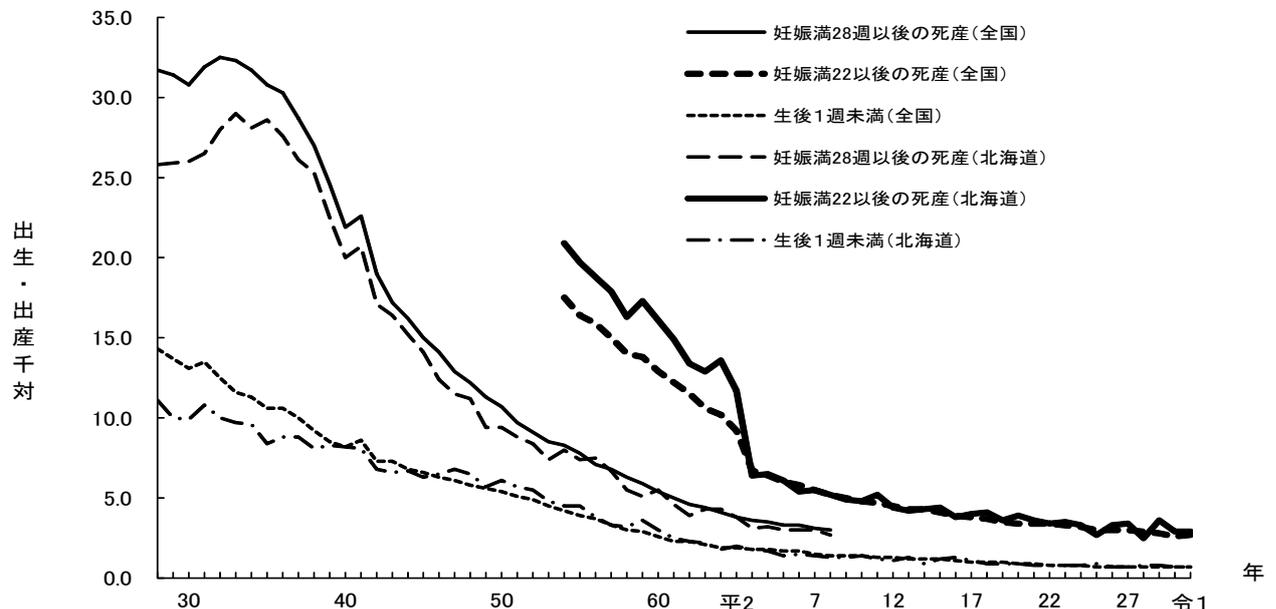
令和元年の周産期死亡（妊娠満22週以後の死産と生後1週未満の早期新生児死亡を合わせたもの）数は112胎で前年の118胎より6胎減少し、周産期死亡率（出産千対）は3.6で前年から横ばいとなっています。

妊娠満22週以後の死産数は91胎で前年より4胎減少し、妊娠満22週以後の死産率（出産千対）は2.9で前年から横ばいとなっています。

なお、早期新生児死亡数は21胎で前年より2胎減少しており、早期新生児死亡率（出生千対）は0.7で前年から横ばいとなっています。（図9）

※周産期死亡の妊娠週数は、WHOの勧告に基づき平成7年から満28週から満22週に改定されています。

図9 周産期死亡年次推移



(9) 婚姻

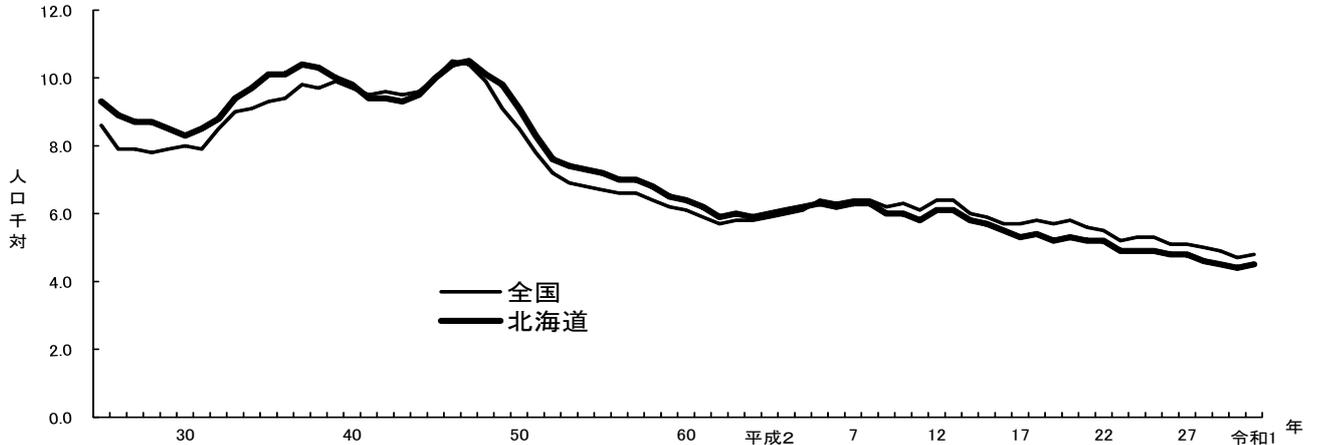
令和元年の婚姻件数は23,417件で、前年の22,916件より501件増加しました。

婚姻率の年次推移をみると、昭和20年代前半は10~11と高率でしたが、以後、急激に低下し、昭和30年には8.3まで下がりました。

その後上昇に転じ、昭和35~49年では1.0前後で推移していましたが、昭和50年から再び低下傾向が続いていました。

令和元年は4.5と前年より増加しています。(図10)

図10 婚姻率(人口千対)の年次推移



平均初婚年齢をみると、夫30.8歳、妻29.5歳となって、第二次婚姻ブームの昭和47年の初婚年齢（夫26.0歳、妻23.8歳）と比べて夫は4.8歳、妻は5.7歳高くなっています。(図11、図12)

図11 平均初婚年齢の年次推移

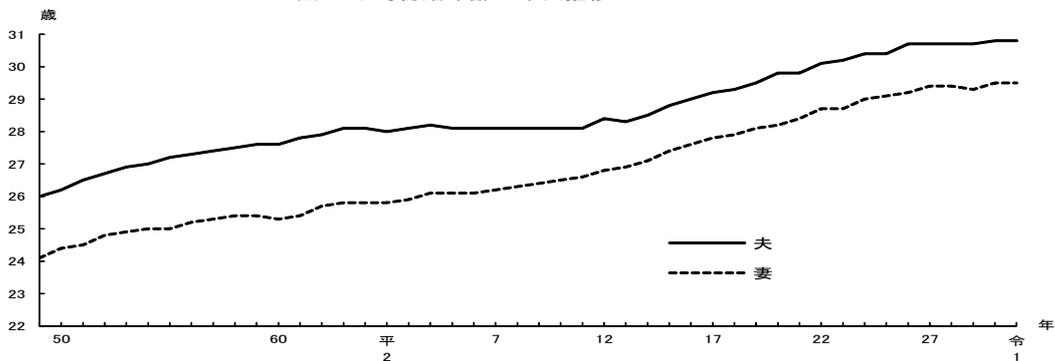
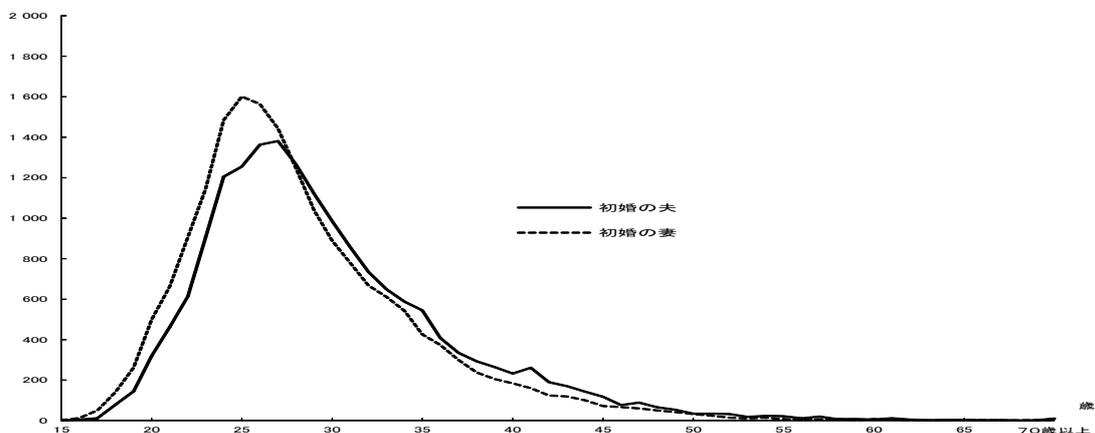


図12 夫初婚・妻初婚の年齢分布



(10) 離婚

令和元年の離婚件数は9,833件で前年の9,971件より138件減少しています。

離婚率（人口千対）は1.89で前年の1.90を下回っています。

離婚率の年次推移をみると、戦後から昭和30年代までは、ほぼ横ばいで推移しましたが、昭和40年代から徐々に上昇し、昭和59年には2.33とそれまでの最高を記録しています。

その後、低下傾向にありましたが、平成3年から再び上昇し、平成14年には2.77と史上最高値を記録しました。（図13）

同居期間別の離婚割合では、20年以上が最も多く、また年齢階級別でみると、30歳代が高い割合を占めています。（図14、図15）

図13 離婚率(人口千対)の年次推移

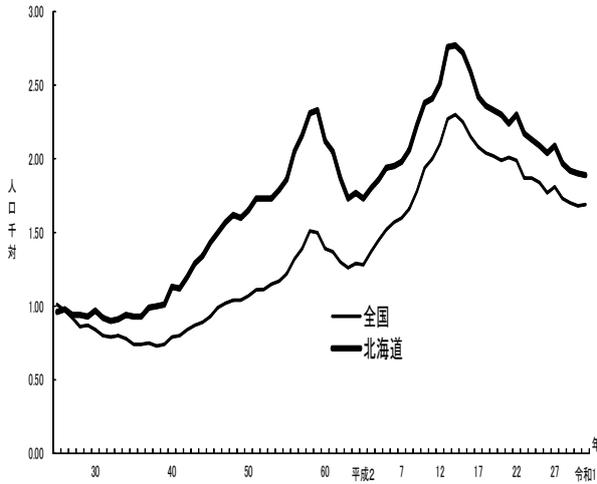


図14 夫妻の年齢階級別離婚件数割合

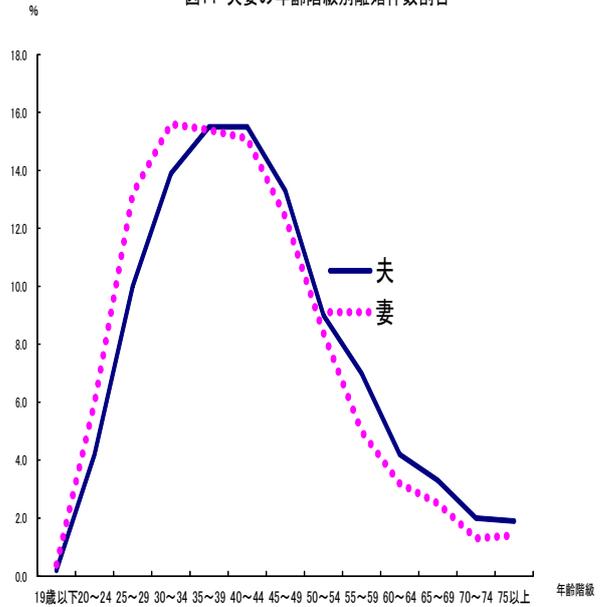


図15 同居期間別離婚件数割合の年次推移(直近10年)

